

福井県立芦原青年の家(1/2)

芦原青年の家の愛称は「アイリー」です。

「アイリー」は自然と人、人々とのふれあいを大切にします。

所在地	あわら市北潟250-20		
設置年月日	昭和41年4月1日		
施設の種類	宿泊・研修施設	施設管理主体	県
設置の目的	青少年を対象とした各種体験活動や研修会などを開催し、心身ともに健全な青少年の育成を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	本館(RC2階建 延面積1,019.016㎡)、体育館(RC1階建、702㎡) 宿泊定員80名(洋室8・和室4)・研修室(2)・食堂・厨房・浴室(2)・グラウンド・キャンプ場		
職員数	職員4人 アルバイト1人 計5人		

利用状況等

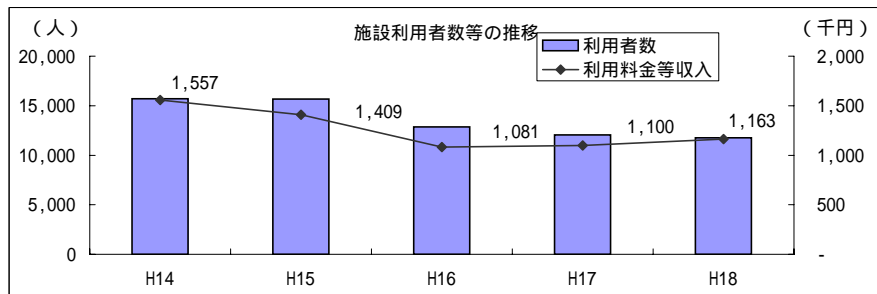
	H14	H15	H16	H17	H18
利用者数(人)	15,690	15,663	12,857	12,043	11,770
利用率(%)	32.7	32.4	27.0	25.2	24.9

利用者負担(宿泊料)等

宿泊料	26歳以上	880円
	26歳未満	530円
	高校生	390円
	小・中学生	270円

利用者負担(施設使用料)

施設使用料	使用料金	5時間未満	5~10時間	10~15時間
	小会議室	480円	900円	1500円
研修室	680円	1500円	1800円	
体育館	900円	1900円	2500円	



利用状況の推移	<p>平成16年度は、5月～9月において主に小学生・勤労青年の団体および利用者数が約3000人ほど減少しました。</p> <p>平成17年度は、1日研修の利用者は増加したものの、宿泊研修の利用者が減少しました。</p> <p>平成18年度は、前年度とほぼ同様の利用がありました。</p>
---------	---

施設の特徴

北潟湖畔に位置し、四季折々の自然の中での様々な体験活動や宿泊研修を通して、豊かな心をはぐむ社会教育施設です。

キャンプ場での活動

・約100人が利用できるキャンプ場で、テント泊や野外炊さん、キャンプファイヤーを楽しむことができます。



本館での活動

・宿泊室は、洋室(8人)が8部屋・和室(4人)が4部屋で、最大80人まで宿泊することができます。
・研修室は2室あり、第1研修室では各種クラフトや雨天用の炊飯ができます。
・第2研修室は長机・椅子があり、約50人が研修をすることができます。

体育館・グラウンドを利用した活動

・体育館はバスケットボール1面がとれる広さがあり、各種スポーツ団体の練習場として利用したり、レクリエーション活動やキャンドルサービスなどを行うことができます。
・グラウンドは、サッカーコート1面ほどの広さがあり、ディスクゴルフなどの各種レクリエーション活動を行うことができます。夜間、天気の良い日は星空の観察もできます。

北潟湖を利用した活動

・徒歩で約15分の所に、あわら市のカヌー艇庫があり、カヌー体験をすることができます。
・初めての方でも30分くらいで上手に漕げるようになり、大変人気のある活動の一つです。
・また、竹と発砲スチロールでいかだを作り、いかだ体験を楽しむことができます。
・北潟湖周辺をのんびりとクイズを解きながら自然とふれあうことができるオリエンテーリングができます。



芦原青年の家ホームページ

ただいまリニューアルに向けて休止しています(19年度末に開設する予定です)

平成18年度の特徴について

事業実績	<p>利用団体の方にとって魅力ある研修内容になるように、第1研修室横に手づくりのピザ窯を6基作りしました。キャンプ場の炊さん用の窯10基をピザも焼けるように新しくしました。</p> <p>利用団体の少ない冬季間を利用して、また、食育の活動として「親子でクッキング」と題して、小麦粉からピザを作り窯で焼く「ピザ作り挑戦」や腸詰めからボイルまで行う「ウィンナー作りに挑戦」の事業を開催し、大変好評でした。【延参加者数:147名】</p> <p>主催事業の様子を写真に撮り玄関ロビーに掲示し、施設を訪れた人が気軽に本施設での活動の様子や研修内容を見てもらえるようにしました。また、主催事業の参加者に後日、修了証の形で活動の様子の写真を送付しました。</p> <p>利用者に樹木などの自然に少しでも関心をもっていただけるように、敷地内にある樹木の種類や名前を調べ、名札を貼ったり一覧表にまとめました。</p>
------	--

福井県立芦原青年の家(2/2)

行政コスト計算書(平成18年度) (単位:千円)

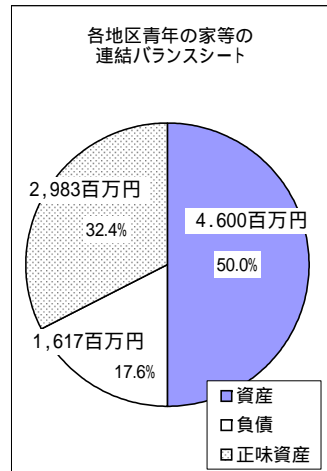
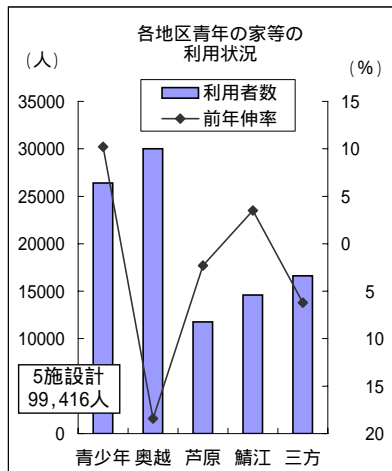
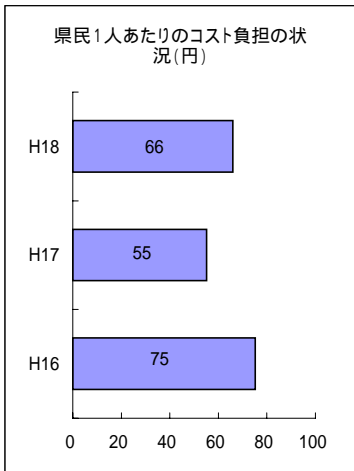
		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	39,828	72.1%	103.1%
	退職給与引当金繰入	260	0.5%	-3.4%
	計	40,088	72.6%	129.7%
物にかかるコスト	物件費	7,883	14.3%	102.1%
	維持補修費	2,437	4.4%	80.0%
	減価償却費	4,830	8.7%	100.0%
	計	15,150	27.4%	97.1%
その他	公債費(利子)	0	0.0%	-
	その他	8	0.0%	100.0%
	計	8	0.0%	100.0%
合計		55,246	100.0%	118.8%
収入	利用料等収入	1,163	2.1%	104.8%
	その他収入	106	0.2%	99.1%
	一般財源	53,977	97.7%	119.2%

バランスシート(平成19年3月31日現在) (単位:千円)

借方			貸方		
資産	前年比		負債	前年比	
有形固定資産	136,652	96.6%	固定負債	31,820	100.8%
うち建物	135,505	96.6%	うち退職手当引当金	31,820	100.8%
投資等	0	-	流動負債	0	-
流動資産	0	-	正味資産	104,832	95.4%
計	136,652	96.6%	計	136,652	96.6%

主な指標 (単位:%、円/人)

	H18	H17	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	167	172	97.1%
県民1人あたり将来負担額	39	38	102.6%
世代間負担率	76.7	77.7	98.7%



バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>職員数が減少した場合、減少した職員数分の退職給与引当金の累計額が不要になり、差し引き人にかかるコストも減少します。一方、翌年度は退職給与引当金の減少がなくなるため、見かけ上、人にかかるコストが増加します。</p> <p>芦原青年の家も、17年度に職員減があり、17年度の人にかかるコストが大幅減となっています。18年度はその反動で、人にかかるコストおよび行政コスト全体が29.7%、18.8%の増加となりました。ただし、16年度と比較した場合、人にかかるコストが17.3%、行政コスト全体で22.4%の減少となっています。</p> <p>資産は建物がおおよそ100%を占め、減価償却分だけ前年度から資産が減少しています。なお、土地は、借地ですので、資産としての計上はありません。(参考:賃借料 991千円/年)</p> <p>将来の財政負担要因となる負債は、退職手当引当金のみで、県民1人あたり将来負担額も低い水準となっています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>施設の維持管理や主催事業等の実施 (主催事業は職員の日常業務として実施) 【H19予算額:約9百万円】</p>
今後の課題	<p>利用者数は5年間で25%減少し、利用率も25%に落ち込んでおり、利用拡大を図っていく必要があります。</p> <p>北潟湖を活用したアウトドア活動が利用の大部分を占めており、地域の自然を生かした事業展開が不足しています。</p> <p>そこで、職員の資質向上を図るとともに、地域や専門の知識を持った方などの協力を得て、事業内容を充実していかなければなりません。</p> <p>また、キャンプ場などが使えない冬季に、魅力ある事業を行い、年間を通じて一定した利用の確保を図る必要があります。</p>
今後の事業方針取組み内容	<p>以下の取組みにより、利用者増を図ります。</p> <p>利用団体の方にとって魅力ある研修活動になるように研修内容のメニューの充実を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使いやすいキャンプ場になるように施設の整備に努めます。 ・周りの自然をいかしたネイチャーゲームなどの活動を取り入れます。 ・雨天時や冬季間に屋外で自然の物を利用したクラフトなどの活動を取り入れます。 ・親子で料理体験できるような活動(ピザ作り・パン作りなど)を取り入れます。 <p>人気のある主催事業の数を増やします。 (例)初心者カヌー体験教室 1回 3回実施 等</p> <p>サービスを充実します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催事業後に、活動の様子の写真を載せた修了証を参加者全員に送付します。 ・よりわかりやすく、魅力ある各種事業ごとのちらしづくりに努めます。